

私がなぜ現在の科目を選んだか

「心臓血管外科」

信州大学医学部附属病院心臓血管外科

田中晴城

「カッコいい」

これが、私が学生時代に心臓血管外科に興味を持った最初のきっかけです。

私が医師を本気で目指した契機は、母が乳癌の手術を受けたことでした。その時にお世話になった医師が外科医であったこともあり、私の中で医師＝外科医という構図ができました。そして、医学生の際に祖母が心臓手術を受けたこと、心臓血管外科を回ったことで心臓に興味を持つようになりました。心臓を初めて見た感動は今でも覚えています。胸骨を開けて心膜を開くと心臓が動いていました。力強く鼓動している心臓。とてもきれいだなと思いました。今思うと、学生時代からそんなことを思う私は少々変態だったのかもしれない。その心臓を手術する心臓血管外科医。織

私がなぜ現在の科目を選んだか

「呼吸器外科」

信州大学医学部附属病院呼吸器外科

松岡峻一郎

私はいつからか外科には進むと決めていた。小学校以来サッカー部に所属した影響か体育会系気質が自分には合っていたことに加え、諸先輩方からの熱心に勧誘していただいた影響であろう。5年生時、県立木曽病院での臨床実習では当時の院長先生に『お前はバカだから初期研修は木曽病院以外無理だと思うよ』と言われ、鷲呑みにしてしまった記憶がある。その後、外科学第一と外科学第二でのアドクリ、県立木曽病院・大学病院での初期研修を経て外科学第二呼吸器外科に固定させていただいた。呼吸器外科を選択した理由は直感的なものに加え、人手不足である。今では若手医師が呼吸器外科の固定者が増えているが、学生・初期

細かつスピードが求められる手術を坦々とこなしていく姿を見て、ただ純粋に、カッコいいな、と思いました。研修医時代には循環器内科にも強く惹かれましたが、外科医を目指したいという気持ちが強く、心臓血管外科を選びました。

心臓血管外科は、数ある診療科の中で最も死と隣り合わせだと思います。患者さんの中には、予定手術でも死の覚悟を持って臨まれる方もいます。そのため、手術を無事に終え、元気になった患者さんからは、心からの感謝の言葉をいただくことができます。そして、それがモチベーションにつながります。冠動脈バイパス術や弁膜症手術など、機能を改善させる手術では、「手術をして楽になったよ。ありがとう」という言葉をいただけます。緊急手術を行わないと命が失われる可能性のある大動脈解離や動脈破裂などの緊急手術では「命を救ってくれてありがとう」という言葉をいただけます。もちろん、その分仕事はハードですが、やりがいがあり、自分の人生をかける価値のある診療科だと思います。「カッコいい」心臓血管外科医を目指し、これからも日々精進し続けていく所存です。

(富山大平22年卒)

研修時代は若手医師が不足しておりチャンスだと感じていた。呼吸器外科の領域としては肺癌、縦隔腫瘍、胸部外傷が主に挙げられ、低侵襲である胸腔鏡下手術が多く、ポートの大きさ、位置一つとっても手術操作に影響するため考え深い。術前CTで血管解剖を把握、シミュレーションして手術に臨む。術中肺動脈の血管鞘を把持・切離し、良い層に入って肺動脈を露出し、いかに出血させずに周囲のリンパ節を剥がしていくかを考える。低圧系である肺動脈の処理は常に血管損傷、大出血の危険と隣り合わせであるが、一番の醍醐味を覚える。術後管理では胸腔ドレーンの水封レベルを観察することで胸腔内の状況を推測できる。等々、固定したからこそ呼吸器外科の魅力を語れているのも否めないが、直感的に選択したこの科は間違いではなかったように思える。仕事が楽しいのである。呼吸器外科の専門性を高めつつ、外科医として医師として『この道より我を生かす道はなし、この道を行く』の精神でこれからも日々精進していきたいと思えます。

(信大平23年卒)